

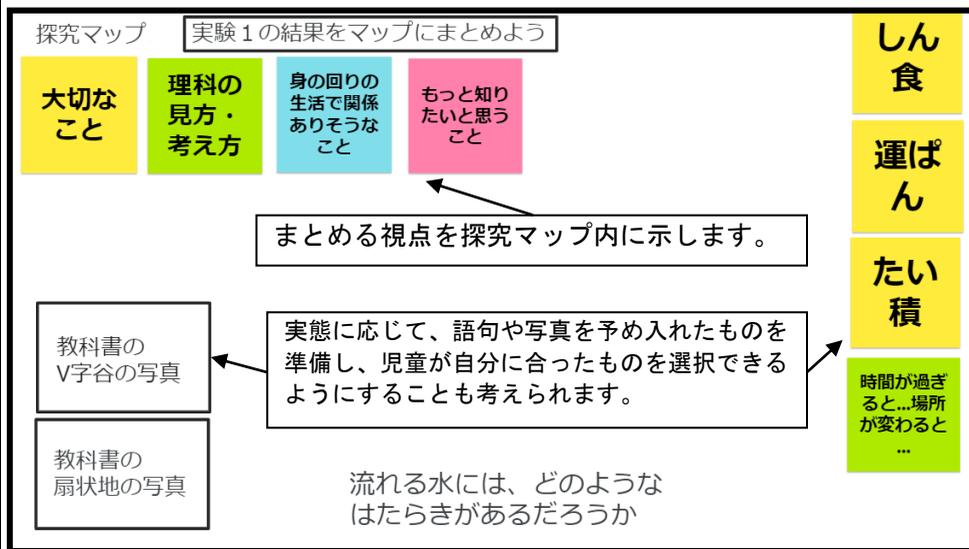


小学校	理科	全学年
-----	----	-----

日常生活との関連を整理し、学習内容をまとめる「探究マップ」の活用

各次の終末において、探究マップ（1人1台端末上のGoogle Jamboard）に日常生活と関連付けて学習内容を整理することにより、「学習内容の理解や自分の考えの深まりを自覚すること」や「学習したことが自身の生活や学習の中で役立つものであることに気付くこと」を目指します。

【探究マップ活用の流れ】



- 探究マップは各次ごとに一人一枚用意します。
- 各次の学習をクラス全体でまとめたのち、10分程度の時間で児童が個人で学習内容をまとめます。
- 児童は「大切なこと」や、「身の回りで関係ありそうなこと」など、視点に応じて付箋を書き、関係ありそうなものを近くに移動して思考を整理します。
- 単元の初めに記述した探究マップと、単元の終わりに記述した探究マップを比べることを通して、児童が自身の成長や変化に気付くことにつながります。

【実践の成果】

- 探究マップを活用することは、児童が理科の事象と日常生活との関連や、学びの積み重ねを捉える手立てとなり、学習内容の理解や自分の考えの深まりを自覚することにつながりました。
- 次ごとに理科の事象と日常生活の関連を整理することを通して、児童が具体的なイメージを持って学習を進めることができました。
- Google Jamboard上の探究マップは、付箋や写真の移動だけでも思考の整理につながることで、実験の様子や写真を取り込めること、やり直しがしやすいことなど、児童一人ひとりが自分の学びに応じて活用することが期待できます。
- 授業の中で、以前の探究マップで何を書いていたかを振り返る児童の姿が見られたり、教員が児童一人ひとりの理解や疑問を知る手掛かりとなったりと、探究マップには次ごとの学習をつなげる効果がありました。

【実践のポイント】

- 探究マップの内容を充実させるためには、授業中に「大切なこと」「理科の見方・考え方」「身の回りに関係ありそうなこと」等を、十分に体験することができたり考えたりすることが大切です。

【活用の展望】

- 学年や単元の内容に応じて、個人ではなく、グループやクラス全体で1つの探究マップにまとめる活用も考えられます。
- 小学校の理科においては他教科の学習内容と関連付けられる場面が多く想定でき、教科等横断的な学びを目指す活用も考えられます。

詳細は、総合教育センターWebサイト 長期研究員 研究報告（R5）をご覧ください。